

## 令和元年度高齢者保健福祉施設等事故防止・感染症予防 対策研修会（令和元年11月11日開催）Q&A

Q.レジオネラ症の発症を防止するため、加湿器は使用しないほうがよいのか？

A.部屋の加湿は呼吸器感染の抵抗性を高めるので、感染症対策として有効ですが、加湿器等を使用する場合は、レジオネラ症を予防するための管理が必要となりますので、「レジオネラ症を予防するために必要な措置に関する技術上の指針」を参考に適切な管理をお願いします。

〔構造上の措置〕

家庭用加湿器は部品の分解及び清掃を容易におこなうことができる構造とすること。

〔維持管理上の措置〕

- ・ 家庭用加湿器のタンクは、毎日完全に交換し清掃する。水の継ぎ足しはしない<sup>1)</sup>。
- ・ 超音波式はできればUVランプか銀イオンで殺菌しながら噴霧する。
- ・ 加熱式、スチーム式、ハイブリッド（温風気化）式では60度以上でレジオネラ菌は死滅するので、業務用であればこちらを使う
- ・ 湿度が50～60%になるように噴霧する。
- ・ タンクは1か月に1回以上、熱水消毒と塩素消毒および乾燥を確実にこなう<sup>1)</sup>。
- ・ 使用後も同様にして保管する。

Q.感冒患者が使用した後の居室病室の換気のタイミングは？

A.RSウイルスは環境中で6時間程度しか生きられない<sup>2)</sup>ので、患者が回復した後に部屋の換気でウイルスを除去する必要はないが、一般清掃に加え高頻度接触面はアルコールで清拭する。

Q.濡れたモップは使用せず化学モップがよいとのことだが本当か？

A.再利用を前提とする清掃用のモップを使用する際は、モップの種類にかかわらず汚染源とならないように管理することが重要です。言い換えれば管理が不十分なモップは感染を広げてしまう汚染源となりうることを十分理解した上でモップを使用していただくことが重要となります。なお濡れたモップは作業終了後に1日1回以上洗濯機で洗濯し、十分に乾燥させ<sup>3)</sup>専用のスペースで保管する。

Q.吐物の処理、清掃の際に部屋の壁も消毒した方がいいか？

A.ノロウイルスは感染力が強く環境中からも検出されるため、壁等の環境も消毒することが望ましい<sup>4)</sup>。ただし次亜塩素酸で金属が腐食するため、消毒液のふき取りは十分おこなう。

Q.嘔吐物の処理の際にビニール袋は二重にした方がいいのか？

A. ノロウイルス感染が疑われる状況で汚物処理に使用したペーパータオルやおむつは、速やかにビニール袋に入れ、感染性廃棄物として処理する。なおビニール袋には0.1%の次亜塩素酸水溶液を汚物等が十分浸る量を入れ、ウイルスを死活化することが望ましい。ビニール袋は二重にするとなお安全と言えます<sup>5)</sup>。

- 1) 厚生労働省：レジオネラ症 [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_00393.html#Q5](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_00393.html#Q5)  
(2019年11月20日閲覧)
- 2) 宮入烈, RSウイルス対策, 日医雑誌, 148(4):649-651, 2019
- 3) 京都市立病院 京都市立看護短期大学：平成21年度 清掃作業手順書  
<https://www.kch-org.jp/wp-content/uploads/2011/04/siryous3.pdf#search=%27%E7%97%85%E9%99%A2+%E6%B8%85%E6%8E%83%E4%BD%9C%E6%A5%AD%E6%89%8B%E9%A0%86%E6%9B%B8%27> (2019年11月20日閲覧)
- 4) 厚生労働省：ノロウイルス  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryoushokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html#23](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoushokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html#23) (2019年11月20日閲覧)
- 5) 高齢者介護施設における感染対策マニュアル 改訂版(2019年3月)平成30年度厚生労働科学研究費補助金(厚生労働科学特別研究事業)